

2020年9月2日
ボルグワーナー

ボルグワーナー、2020年度サステナビリティ(持続可能性)報告書を発行 戦略及び主要な成果が明らかに

- 「Purpose Propelled (パーパス・プロペルド、存在意義に突き動かされて)」と題する年次報告書、サステナビリティに関する目標及びそれらを実現するための戦略が明らかになる
- 報告書には環境に対する責任、社会的責任、ガバナンス、及び実績データが含まれる
- クリーンでエネルギー効率の高い世界を目指す企業ビジョンの実現を支えるサステナビリティへの取り組み

ボルグワーナー(本社: アメリカ合衆国ミシガン州アーバンヒルズ、社長兼最高経営責任者: フレデリック・リサルド/ Frederic B. Lissalde)は、内燃機関自動車、ハイブリッド自動車およびEV(電気自動車)に採用されるクリーンで高効率の動力システムに向けたソリューションを提供する世界的リーダーです。同社はこのたびサステナビリティ年次報告書を発行し、その中でサステナビリティに関する戦略、目標、重点分野、成果を公表しました。「Purpose Propelled」と題する同書は包括的な報告書となっており、環境に対する責任、社会的責任、ガバナンスおよび実績データを含む主要セクションにより構成されています。従業員、顧客、社会および地球全体のために、よりクリーンでエネルギー効率の高い世界を創出することにより事業が持続可能となる、という考えが同社の包括的なサステナビリティ戦略の中核を担います。達成手段は、クリーンなモビリティ技術の普及を更に推し進めること、魅力的で安全な職場を提供すること、そしてすべてのステークホルダーと連携し報告を行うことです。

ボルグワーナーの社長兼最高経営責任者、フレデリック・リサルド(Frederic B. Lissalde)は、「ボルグワーナーは、より効率の高い自動車を提供し、私たちが生活する世界がよりクリーンになるよう努めています。同時に、安全性を最優先することで従業員をサポートし、生活や仕事をする場所を提供して下さる地域社会に還元することを目指しています。クリーンでエネルギー効率の高い世界の実現を目指す企業ビジョンをさらに推し進めるなか、ボルグワーナーがサステナビリティに関してこれまで収めてきた成果や継続している取り組みを、大変誇りに思います」と述べています。

環境に対する責任

すでに2020年度の環境に関する経営目標を過達したボルグワーナーが今後に向けて設定した新たな目標の1つに、2030年度までに二酸化炭素排出量を(2015年度ベースライン比で)50%削減することを掲げています。さらにサステナビリティ戦略を推し進めるため、全ての製造工場が環境マネジメントシステム(EMS)においてISO 14001認証を取得しており、全工場が廃棄物リサイクルプログラムを確立し

ています。中には、埋め立て廃棄物処理ゼロを達成している工場もあります。また、同社の6つの事業所がLEED(Leadership in Energy and Environmental Design)認定を取得しています。これらの事業所や他の工場ではソーラーパネル、太陽熱温水器、雨水収集システムやソーラーチューブ照明などを導入することにより資源効率を改善しています。

2019年度におけるボルグワーナーの収益の80%以上がEV、ハイブリッド、および内燃機関の排ガス低減に効果のある、ターボチャージャー、排気ガス再循環(EGR)バルブとクーラー、エンジンタイミングシステム、デュアルクラッチトランスミッション(DCT)とその制御モジュールといった部品の売り上げにより得られたものです。よりクリーンなモビリティが求められる中、ボルグワーナーでは2023年度までにハイブリッドおよびEV関連部品が収益の36%を占めるようになると予測しています。

社会的責任

ボルグワーナーでは、従業員は会社の柱であるという理解のもと、職場の安全確保を最も重要な取り組みと位置付けています。全世界の職場におけるTRIR(記録可能な労働災害頻度)指標は、過去10年間で75%改善しています。世界8か所の拠点において、100万時間(約3年間)連続で記録対象となる労働災害が発生しなかったことを受け、安全性向上に向けた功績に対し、ボルグワーナーの最優秀安全社長賞(CEO Safety Excellence Award)が授与されました。さらに、安全性の重要性を啓蒙すべく、2019年に第1回「安全の日」を開催し、従業員とその家族、およびそれぞれのコミュニティの住人が安全に関わるイベントや研修に参加しました。「安全の日」は今後毎年開催する予定です。2019年に、同社は従業員とともにコミュニティに対する社会貢献活動を推し進め、280万ドルの寄付、580件以上の慈善活動の支援、63,000時間近くに及ぶ奉仕活動などを行いました。

ボルグワーナーは、安全に向けた重点的な取り組みに加え、従業員の育成とインクルーシブな環境の推進に全力で取り組んでいます。

ボルグワーナーは、職場における多様性、従業員の健康確保および職場全般に対する取り組みなどの継続的な取り組みが評価され、フォーブスの「America's Best Employers 2019」(2年連続)、ブルームバーグの「2020 Gender Equality Index」、「Healthiest 100 Workplaces in America」、ニューズウィークの「America's Most Responsible Companies 2020」、デトロイトフリープレスの「Top Workplaces」(2年連続)など10数件もの賞を受賞しました。

ガバナンス

ボルグワーナーにおけるサステナビリティの最高推進責任者は取締役会であり、戦略委員会は戦略と目標を承認し、目標値達成のためのリソースを提供します。透明性確保の観点から、米国サステナビリティ会計基準審議会(Sustainability Accounting Standards Board)のフレームワークやGRI(Global Reporting Initiative)基準に則り、継続的な報告を遵守しています。また、サプライヤー契約を更新し、すべてのサプライヤーがサステナビリティの最低基準を満たすことを求める文言を含めることを予定しているほか、影響が大きく、リスクの高いサプライヤーの少なくとも80%を継続的に評価するの目標を設定しました。さらに、安全性を表彰する仕組みに倣い、品質に関する表彰プログラムを2020年度に設け、品質、製品立ち上げ、保証といった指標に基づき、優秀な工場を顕彰します。

2020年度サステナビリティ報告書「Purpose Propelled」(英語)の全文は、borgwarner.comでご覧いただけます。

ボルグワーナーについて

ボルグワーナー(NYSE: BWA)は、内燃機関、ハイブリッド、電気自動車向けのクリーンで高効率な技術ソリューションを提供するグローバルなリーディングカンパニーです。世界19カ国

67カ所に生産・開発拠点をもち、全世界でおよそ29,000人の従業員を擁しています。詳細については、borgwarner.comをご覧ください。



Purpose Propelled

2020 Sustainability Report



サステナビリティへの取り組みは、クリーンでエネルギー効率の高い世界を目指す ボルグワーナーの企業ビジョン実現を支えています

[詳細はこちら](#)

本プレスリリース(以下、本「リリース」)に記載された内容には、経営陣の現在の見通し、期待事項、試算、推定に基づく、1995年米国私募証券訴訟改革法で想定された将来予測に関する記述が含まれている場合があります。「見込む」、「考える」、「継続する」、「可能性がある」、「目的とした」、「影響」、「試算する」、「評価する」、「期待する」、「予測する」、「目標」、「指針」、「取り組み」、「意図する」、「場合がある」、「見通し」、「計画する」、「潜在的」、「予見する」、「推定する」、「追求する」、「目指す」、「すべきである」、「目標とする」、「の場合」、「でしょう」、「かもしれない」などの文言、その変化形および同様の表現は、かかる将来予測に関する記述であることを意図しています。さらに、歴史的事実に関する記述を除く、本リリースに含まれる、または言及する形で盛り込まれた当社の財務状況、事業戦略、当該戦略を実施するための手段などに関して、将来起きる、または起きる場合があると当社が期待する、または見込むあらゆる記述は、将来予測に関する記述です。その例として、業務の変更、競争上の強み、目標、当社事業および業務の拡大と成長、計画、将来の成功に関する言及などがあります。当社の直近の Form 10-K 年次報告書(以下、「Form 10-K」)の第7項「重要な会計方針(Critical Accounting Policies)」で記述されたものをはじめとする会計上の試算は、本質的に将来予測です。すべての将来予測に関する記述は、歴史的な動向、現在の状況、期待される将来の進展、当社がそれらの状況下で適切と考えるその他の要因に関する当社の経験と知見を踏まえた当社による仮定および分析に基づいています。将来予測に関する記述は業績を保証するものではなく、当社の実際の業績は、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄と著しく異なる場合があります。

これらの将来予測に関する記述は、本リリースの発行日における事柄を述べたものであり、過度に依存すべきではありません。将来予測に関する記述にはリスクおよび不確実性が伴いますが、それらの多くは予見困難かつ一般的に不可抗力によるものであり、将来予測に関する記述において表現、推定、または示唆された事柄とは著しく異なる実際の結果をもたらす可能性があります。そうしたリスクおよび不確実性の例として、自動車およびトラック製造(いずれも景気に大きく左右される)への当社の依存性、大手 OEM 顧客への当社の依存性、商品の入手可能性および価格、供給停止、金利の変動および外貨の為替レートの変動、与信枠、主要経営陣への当社の依存性、情報システムへの当社の依存性、世界経済環境の不確実性、さまざまな損害賠償に関する訴訟など既存または将来の法的手続きの結果、当社が事業を展開している国における関税など将来の法規制の変更、直近の Form 10-K の第1A項「リスク要因(Risk Factors)」など証券取引委員会に提出する報告書に記載したその他のリスクが挙げられます。当社は、期待事項の変更または記述の根拠となる出来事、条件、状況、仮定の変更を反映するために、本発表文に含まれる将来予測に関する記述のいずれかを更新する、または更新もしくは改訂を公表する義務を負いません。

<報道に関するお問い合わせ>

ボルグワーナー広報事務局 中井、佐藤

TEL: 03-3571-5326 FAX: 03-3574-0316

EMAIL: borgwarner-pr@kyodo-pr.co.jp